

## インドネシア水道に係る情報収集 No. 190403-1J

検索サイト	Google	実施日	2019/04/03	実施者	TADOKORO
検索方法: 「インドネシア 水環境」で検索					
URL: <a href="https://www.ilec.or.jp/wp-content/uploads/nl/nl62j.pdf">https://www.ilec.or.jp/wp-content/uploads/nl/nl62j.pdf</a>					
<p>標題: WLC16 開催国インドネシアにおける湖沼の現状 (雄大なトバ湖など)</p> <p style="text-align: center;">NEWSLETTER 第 62 号 : 2016 年 4 月、公益財団法人 国際湖沼環境委員会 (ILEC)</p>					
<p>国際湖沼環境委員会《INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION (ILEC)》が発行しているニュースレター記事の概略。</p> <p><b>トバ湖</b>: マレー半島から西にマラッカ 海峡を隔てたスマトラ島北部にあり、面積 (約 1,130 平方キロメートル)、水深 (最深部で約 530 メートル) とともにインドネシア最大。東南アジアでも雨季のトレンサップ湖 (カンボジア) に次ぐ規模を誇り、カルデラ湖としては世界最大。山々に囲まれた湖の中心部にはサモシール島という有人の島があるほか、湖岸から湖底にかけて急激に深くなっている地形が特徴。湖水の透明度は高く見えるが、人口が集中する地点では富栄養化が進んだ湖面にホテイアオイの群生や、湖岸への家庭ゴミ不法投棄による水質汚染が見られる。休暇シーズンには国内外からの観光客で賑わう。漁村や農村が点在する流域には全体的にのどかな暮らしが息づいており、湖上には対岸からの農産物や商用の物資を 運ぶ人々を乗せた連絡船が頻繁に行き交う。スマトラ島ではパーム油と天然ゴムのプランテーションが盛んで、トバ湖への最寄空港があるメダン近郊にもこれら の密林が広がっている。両資源ともにアジア屈指の輸出量でインドネシアの経済を大きく支えているが、プランテーションでの精製は深刻な水質汚染源となるだけでなく、いずれの樹木も十数年で資源採取効率が低下し長くても 25 年程度 で再植林を要するため、使い終わった後の木材をバイオマスにするなど排水処 理と資源の有効利用が課題となっている。…</p> <p>バリ島北西部のバトゥール湖、中央ジャワのラワペニン湖についても紹介している。</p>					
備考					